

参考資料 3

竹田市総合計画審議会 委嘱状交付式及び第1回審議会 会議録

- 日時：令和4年3月22日（火）13：30～15：45
- 場所：竹田市役所 本庁舎3階 会議室
- 出席者（敬称略）
 - 【委員】計15名
首藤文彦 / 麻生賢志 / 中山勝宏 / 田崎真佐恵 / 姫野由香 / 工藤大行 / 木部眞里子
安永正剛 / 佐藤恵 / 高橋英明 / 古森佳代 / 工藤桂太 / 秋田勲 / 奥結香 / 佐藤大樹
 - 【事務局】企画情報課 総合政策室
課長 志賀郁夫 / 課長補佐 渡部哲哉 / 課長補佐 大久保正光 / 係長 児玉貴生
副主幹 足達亜美 / 副主幹 島村育郎 / 副主幹 井野輝未 / 主査 重石和紀
主査 佐田直人 / 主査 工藤貴大 / 主査 足立啓樹 / 主査 大塚ひかり
 - 【傍聴者】計2名（報道）
- 欠席者（敬称略）
 - 【委員】計3名
佐藤春三 / 森脇久代 / 工藤厚憲
- 次第
 - 【委嘱状交付式】
 - 1 開会
 - 2 委嘱状交付
 - 3 市長あいさつ
 - 4 閉会
 - 【第1回審議会】
 - 1 開会
 - 2 委員及び事務局紹介
 - 3 会長・副会長選任
 - 4 会長・副会長あいさつ
 - 5 説明事項
 - 竹田市総合計画審議会の概要について
 - 第2次総合計画策定の進め方について
 - 第1次総合計画について
 - まちづくり市民アンケート調査結果について
 - 今後のスケジュールについて
 - その他 参考資料
 - 6 その他
 - 7 閉会
- 公開又は非公開の別：公開

■ 配布資料

- 資料 竹田市総合計画審議会条例
- 資料 第2次竹田市総合計画の策定体系
- 資料 - 1 たけた活力創造計画2006（第1次竹田市総合計画）
- 資料 - 2 第1次竹田市総合計画基本計画の達成度評価
- 資料 まちづくり市民アンケート調査結果（一般・高校生・中学生）
- 資料 今後のスケジュール（予定）
- 参考資料1 竹田市移住定住のとりくみ
- 参考資料2 竹田市地域公共交通計画 概要版（案）
- 参考資料3 第4次竹田市行財政改革大綱
- 参考資料4 竹田市統計書
- 参考資料5 人口等資料（国勢調査結果、RESASほか）

■ 問い合わせ先

竹田市 企画情報課 総合政策室 TEL：0974-63-4801

委嘱状交付式

委嘱状交付

土居市長から、佐藤春三委員以下18名に委嘱状を交付。

市長あいさつ

市長

皆様には快く委員を御承諾いただきましたことを、まずもって厚くお礼申し上げます。また、皆様には常日頃から竹田市の市政推進につきまして御理解、御協力を賜り厚く御礼申し上げます。竹田市は平成17年4月に旧1市3町が合併し誕生し、平成18年度には新市建設計画を基に、18年度～平成27年度を目標年度とする第1次総合計画を策定。第1次総合計画は「自然・歴史・文化を育む名水名湯田園観光都市」を将来像とし、各種の政策・施策を進め、また協働のまちづくりを進めてきた。その後、地方自治法の改正などもあったが、以降は6年間総合計画が策定されておらず、県内18市町村のなかでも竹田市のみが計画がない団体となっている。総合計画は各自治体の最上位計画となるもので、自治体運営の背骨となるよう、私は特に、“人”に焦点を当てた、新たな計画をつくりたいと思っている。『いのち輝く』『いのち守る』『いのち育む』という理念のもと、市民ひとりひとりのいのちを輝かせる竹田市に出来るように、そんな思いに沿った計画としたい。自治体を取り巻く環境はますます厳しさを増しており、令和2年国勢調査を見ても人口減少に歯止めがかかっていない状況である。10年後の竹田市・竹田市民の夢を明確にするために、総合計画の策定にあたっては、公募で入っていただいた方、そしてこれまでいろいろな団体で活動していただいている方、そして学識経験の方というようにいろんな立場の方が顔合わせをいただいている。この審議会では、積極的な御審議、御指導をお願い申し上げます。

第1回審議会

	1 開会
副市長	藤田副市長から開会の挨拶がなされた。
	2 委員及び事務局紹介
委員・事務局	委員自己紹介及び事務局紹介が行われた。 組織改正のため、令和4年4月1日からは総合政策課が事務局を担う。
	3 会長・副会長選任
	大分大学理工学部助教の姫野由香委員が委員長に選出された。 竹田市自治会連合会長の秋田勲委員が副委員長に選出された。
	4 会長・副会長あいさつ
委員長	こういった審議会において、利害関係のない市外から来た人間が委員長を務めることは、公平性の観点から良いことだと考えている。一方で、総合計画は市の羅針盤となっていくものであるため、その地域で生活をしている市民が委員長として着座されることが望ましいのではとも考えていた。私が移住定住の研究を進める中で、学会発表等を通して竹田市がきら星のごとく輝いていることがよく分かる。なぜ竹田市がこんなに輝いているのか、それは、田園地帯、大自然、そして城下町といったまわりの素晴らしい環境が相乗効果を生んでいるのではと考えている。そういったものは数年で形成されたものではなく、過去の積み重ねの成果であると思う。将来の計画策定も同じで、自己紹介で佐藤大樹委員が言われたように、孫の世代に引き継いでいくために今、何をしなければならないのかを議論していきたい。委員長を務めることに不安もあるが、皆様のご挨拶を聞きながら、このメンバーであれば大丈夫だと思った。審議会では出来るだけフランクにご意見を聞かせていただき、意見を集約することのお手伝いを出来たらと考えている。また、無い袖はふれないことにも留意しなければならない。だからと言って萎縮することなく、ぜひ、皆さんにお力を貸していただきたい。
副委員長	委員の皆さんには忌憚のない意見を聞かせていただきたい。予算的な問題もついてくるが、知恵を働かせて、ひとつひとつクリアしていけば、だんだんと大きな課題解決に向かっていくものと考えている。地元に若者が残って活気が溢れるような、そんな竹田市の新しい未来が生まれる計画をつくってきたい。
	5 説明事項
委員長	姫野委員長の進行により、議事を進めた。事務局から以下の項目について説明がなされた。
事務局 (質疑応答)	竹田市総合計画審議会の概要について【資料(1)】 第2次総合計画策定の進め方について【資料(2)】
委員	実施計画の3年間と基本計画の5年間の関係はどういったものか。
事務局	参考資料5の3ページにあるように、実施計画は3年間の期間を設けて策定しながら、毎年度見直しをかける運用となる。基本計画は前期と後期の5年間ずつのもので、実施計画の上位計画にあたる。

事務局	第1次総合計画について【資料 - 1,2】 まちづくり市民アンケート調査結果について【資料(4)】
(質疑応答・ 意見交換)	
委員長	資料(2)総合計画策定体制図の右側の枠が、本審議会の位置づけと捉えてよいか。
事務局	その通りである。
委員長	策定プロジェクト会議とは何か。
事務局	市役所の課長級のメンバーで構成される会議である。資料(2)総合計画策定体制図の点線の中は庁内で行われる会議を示している。
委員	私は農業をされていて自然との共存を大切にしている。資料(4)アンケート結果を見ると、自然環境に関する市民の満足度は高いが、今後の優先度は低いと考えられていることが窺える。管理しているからこそ、自然が守られていることを忘れて欲しい。何も手を入れなくて、現在のような自然になるわけではない。例えば、野焼きは人手不足により維持することが困難となっている。野焼きが出来ない範囲が増えると原野化してしまうので、それでは魅力的な自然環境にはならない。自然環境を維持するための営みにもフォーカスしていただくと良い。
委員	第1次竹田市総合計画の振り返りについて、基本目標3やすらぎと安心に満ちた支えあうくらしづくりでは、資料(3)-2達成度評価の結果と資料(4)アンケート結果の満足度には乖離があるようだがいかがか。
事務局	第1次竹田市総合計画の達成度評価については、実施したか否かで評価した。効果を評価するための具体的な指標を設けてはいなかったため、実施したもの、それが市民の満足度にはつながっていなかったという結果だと受け止めている。その原因は、皆さんと意見交換等を通して探っていきたい。
委員	資料(4)アンケート結果から、保険医療サービスの充実の重要度が高いことが分かった。同じく重要度が高い就労環境整備についても、医療・病院は大きな役割を担っていると認識している。竹田医師会ではその期待に応えたいと思っている一方で、昨今医療分野でもルールが変わり、経営や人材確保が厳しい状況にある。こうした困り事は医療現場だけではないと思うので、例えば、姫島村の事例を参考に、困ったときにどんな分野の人でも手を挙げられるような仕組みが出来るとよい。お金のまわり方の面からも不公平のない竹田市になっていけば良いと思う。
委員長	市民が抱える困り事は、地域の高齢化が進んでいく中でこれからも増えていくだろう。これまでのやり方を変革し、部門を超えて多分野でつながることが出来るワンストップ相談窓口のようなものを作れないか、といった趣旨のご指摘であったと思う。例えば、先ほどお話のあった野焼きに関して、そうした連携は可能か。
委員	過去にはボランティアによる実施も試みたが、写真を撮影するのみで何もしない、作業の途中でどこかへ行ってしまったなど、思うような人が集まらなかった経験がある。野焼きは危険が伴う作業であるため、受け入れ側も知識・技術のないボランティアが入ってくることを嫌がる。例えば、阿蘇市で

はボランティアを募ることと併せて、有料の研修も実施しており、研修に合格した人は野焼きに携わることができる。ボランティアは誰でも良いというわけではなく、教育された人であると大変助かる。

委員

私は仕事柄、外国人労働者と一緒に働いている。彼らは竹田市の住民票を持っている。今後も続く人口減少の中で、こうした外国人労働者の力を活用し、そして一緒に参加できるようなサービス・仕組みが構築されると良いと考える。

委員長

ボランティア、移住者、外国人労働者など新たな担い手を竹田市に受け入れ、上手く展開していくためには、仕組みをセットで行うことがポイントとなる。これまでの皆さんのお話を聞いていて、新たな担い手の方と連携できるような、サポートプログラムが充実されると良いと感じた。

委員

第1次竹田市総合計画策定時のことを懐かしく思い出していた。先ほど、庁内の評価とアンケート結果に乖離があるというお話が出たが、十数年前と現在では環境が変わってきているので、当時の計画が目指すところと、現在の市民の皆さんが求めることでは違っているのだと思う。そのあたりが今回のアンケートに表れたのではないか。第1次計画に掲げたことは着実に実施してきたということなので、次の展開として是非、現在の新しい課題や求められるものを分析し、計画策定につなげて欲しい。

委員

竹田市には地域おこし協力隊の制度があり、任期満了後に畜産農家になった方が数名いる。彼らはそのまま竹田市に定住している。なぜ定住出来ているかを考えると、まわりの人間に育てられているからだと思う。横のつながりが出来ると、お世話になったから・大事にしてもらったからということで、市外に出にくくなる。こうしたつながりを大切に出来るよう、多かれ少なかれ行政のサポートは重要であると考えており、仕組みがあることで我々の組織としてもサポートしやすい。また、畜産農家は作っても売れない場合があるので、スタート時のみならず、開始後のサポートにも目を向けていただけると良い。

委員

移住定住も重要なことであると思うが、もともと竹田にいて、これからも竹田に住もうとする市民、特に若者にも目を向けていただきたい。例えば農業で言えば、親元就農等の支援をもっと広げていけると良い。但し、手厚くすればするだけ良い、というわけではないと思うので、バランスの良いところで進めていければと考える。

委員

これまで多くの移住者や若者を見てきたが、竹田に住もうとする本人がどの程度覚悟と計画を持っているかが最も重要だと感じている。こちらも出来るだけのサポートをしつつも、最終的に残るかどうかは本人次第である。そこを踏まえながら、若者が来やすい環境を整えてあげて、覚悟を持った人をサポートできる仕組みを構築出来ると良い。若者の話を聞いていると、正直甘いと思うところもある。資金もなく浅い考えで来る人が多いように思うが、事業を起こすには500～1000万円必要である。そして、地域に溶け込むことも重要であると伝えなければならない。

委員

竹田市PTA連合会の活動をしている時に、様々な保護者の方々と出会うことが出来た。話を聞く中で、もともとの市民が、移住者を受け入れる広い心があるかどうかで変わるのではないかと、という考えになった。連合会の会合では、父親の方で普段は参加していなかったけれど参加をして新たなことが知れたという意見や、会に参加することで学校や地域との連携を意識するようになったという意見があり、このような活動も意識を変えるきっかけにな

るのだと実感した。また、移住してきた方よりは、働く場を探しているもともとの市民を大事にして欲しいという意見もあった。一番は市民で、その次に移住者でも良いのでは、という趣旨であったと思う。地域おこし協力隊については、どのようなお金の仕組みであるかを知ってからは、まわりの人にも説明出来るようになった。批判から入るのではなく、協力できる環境を作っていくことが大事だと考えている。

委員長

竹田市の中には地域おこし協力隊とそのOBの方がたくさんいて、もともとは移住者だったけれど地元の人になっている、そんなグラデーションが出来ていると思う。みんなのいえカラフルをはじめ、そのような方々は、地元の人と外から来る人をつなぐ役割を担っていると見えている。

委員

私は地域おこし協力隊の制度に大変助けられた。ある程度の収入をいただきながら、自分の理想とする地域福祉の実現に向けた活動を行うことが出来た。それが今につながっていると感じている。一方で普段関わりのない方には、何をやっているのかと不信感を抱かれていたり、税金を使ってなど思われていたりすることも知っている。他の協力隊員からもそのような話を聞いたことがある。ただ、それはそれで事実であると思う。実際に、竹田市に定住している隊員もいれば、任期中で辞めてしまった隊員、任期終了後に竹田から転出してしまった隊員もいる。地域おこし協力隊によってこれだけの成果があったという分析とは別に、今後のために、そのような隊員がなぜ辞めてしまったか、なぜ転出してしまったかを分析する必要はあると考える。私がなぜ今も竹田で活動をしているのかと考えると、最初に伺った際に、市役所の職員の皆さんがとても温かく迎えてくれて助けられたことがひとつだと思う。福祉に興味があると話したら、では一緒に行こう、とすぐに福祉の課に連れて行ってくれたことを今でも覚えている。

委員

少しマイナスの発言になるかもしれないが、例えば今は人材派遣会社などもあり、すぐに人材を調達するサービスが存在する。若い人の考え方も変わっている。高速道路も近くまで来ている。ここで出来ないことを無理してやろうとしなくても良いのではないかと、どこかで線を引くことも必要では、という考えも自分の中で芽生えてきた。頑張ることも大事だが、頑張り過ぎてつぶれないように、考え方や方法を変えることも視野に入れていかなければならないと思う。10年先、20年先を見据えた舵取りは大変難しいものであるが、そういったことも皆さんと一緒に考えていきたい。

委員長

ご指摘のとおり、課題をしっかりと洗い出したうえで、将来を見据えて優先順位をつける必要がある。

委員

資料(4)アンケート結果は面白い結果であった。私たちが活動するユネスコエコパークの理念は自然との共生である。現状では、校長会等でイベントを提案するが、年度の行事が決まっているために中々組み込むことが出来ない。自然との共生につながる活動を、学校教育の中に組み込むことも視野に入れていただきたい。新たな連携により、未来の兆しが見えてくる。

委員長

工藤桂太委員は観光者向けにも試行錯誤されてきたと思う。そのような方から、地元の学校と連携してやっていきたいという言葉が出てきて、力強く感じた。これまで外からの人、内の人という観点で話を進めてきたが、さらに関係人口という言葉がある。様々な濃さで地域と関わる、竹田にご縁のある人をどれだけ増やせるか。これは竹田市だけではなくて全国の自治体で取り組んでいる。例えば、住所は別の市だけれども竹田の高校に通っている高校生に、竹田って良いところだななどの程度思ってもらえているか。

委員（代理）	<p>総合計画については、義務計画でなくなったとのことだったが、私は持続可能な自治体をつくっていくために必要な計画であると考えており、10年間でPDCAサイクルに則って評価・行動をしていけば必ず成果が出ると考えている。これだけの人口減少を迎える中で、一丸となって良い計画を作りたい。また経済界では、いかに順調に売り上げを伸ばしていても、働き手不足によって経営難に陥る企業が増えている。そこで我々は、雇用の確保の観点から、外国人技能実習生の受け入れに取り組む予定である。既に、今年の秋に第一陣を受け入れるための準備を進めている。国際交流・多文化共生を柱として掲げ、ひいてはインバウンド効果を狙って好循環を生み出していきたい。</p>
委員	<p>私は合併当時に初代の観光協会長として就任して8年間務めた。当時は、地域の枠を外して皆でやっていこうという話をしていて、その時からすべては人であるという理念を持っていた。これまで、経済が落ち込んだときに楔を打ち込むのは観光であると考えてやってきたが、コロナ禍では観光が一番の打撃を受けてしまったので、これを盛り返したいという思いがある。中国の故事に「一年先を見る者は花を植え、十年先を見る者は木を植え、百年先を見る者だけが人を育てる」ということわざがあるが、総合計画の最終的な問題は人づくりだと考えている。今日も安永委員をはじめ、委員の皆さんから気が伝わってきた。総合計画は多岐にわたる内容で難しい部分もあると思うが、この審議会メンバーの思いやエネルギーが一緒になれば、帰ったあとにそれが家族に、職場に、まわりの人に広がっていくと思う。</p>
委員	<p>資料(4)のアンケート結果を見たときに、不満が多いなと少しびっくりした。やりがいがあると思う。このアンケートをしっかりと分析して、次の計画に活かして行って欲しい。また、行政的なやり方・視点では、いろんな分野を均等に組み込んで総合計画をつくるのがセオリーと思うが、例えば、豊後高田市は子育てに注力しており20・30代の女性の人口減がないなど成果をあげている。竹田市には元気な高齢者の割合が多いことをはじめ、竹田らしさ、竹田はやっぱり違うなと言われるような尖った魅力がたくさんあるので、特色をより伸ばしていく計画もマッチすると思う。</p>
委員	<p>先ほども話に出たが、行政としての達成度と市民の満足度に差があることは私も気になった。時代の移り変わりや価値観の変容もその原因のひとつだと思うが、ここの原因を探っていくことがまず大事だと考える。学生へのアンケート結果に目を向けると、「竹田市にずっと住みたいか」の設問では、年齢を重ねていくにつれて点数が下がっていることが窺える。人口が減っては何事にも良い結果が得られないと考えられるため、子どもの頃の思いをずっと持たせてあげられるよう、地元の人を大事にする政策をつくって行って欲しい。また、今後の重要度では交通の問題が高いポイントになっていることを確認した。現在の形の交通は10年後にはなくなっていると予想される。運転手が高齢化によっていなくなることに加えて、運転を生業にしようと希望する若者は殆どいない。公共交通の在り方を根本から考え直さないといけない段階に来ている。我々も当事者として将来を一生懸命考えていきたいと思う。</p>
委員	<p>日本全国で人口減少がさらに進むことは明白で、法人企業が少ない竹田市においては、何をしてもお金がないと出来ないのが現実問題である。そのため、移住・定住施策により住民税等の増加につなげていきたいという行政の意図は当然と思う。一方で、地方の小さな自治体同士による人の取り合いや競争がいつ終わるのか、ということも危惧するところがある。外国籍の方も含め、その方々を取り巻く環境、人権のこと、多岐にわたり検討することが</p>

山積するだろうと予想している。組織のデータから申し上げると、竹田市は夜間人口に比べて昼間人口の増加率が県内トップである。つまり、市外から竹田市に働きに来ている人がいても、そこに住まないということを表している。よく出る回答として、竹田市はアパートが少なく、しかも家賃が高いので住むことが躊躇われるという意見がある。補助金・助成金の工夫によっては改善が出来るのではないかと考える。また今後の審議会について、残りの回数も限られるので、それぞれの立場で有益な、深い議論をするために、行政から宿題を出していただけると良いのではないかと。

委員

学校現場では、先生が不足していることを感じている。それらが就労環境の整備、学校教育の充実、子育て支援の充実にもつながっていくのだと思う。一度竹田を出た人材が、戻って来られる仕組みがやはり大切であると考えている。私は農業をしているため、子どもは竹田の親元就農の制度を利用して戻ってくることが出来た。でも当てはまる人ばかりではないと思う。また荻町では、ビニールハウスを建てるのが重労働となる高齢者を助けるために、その時期になると若者を4, 5人募って農家を手伝うことを続けている。この方法によって、高齢化が大変なところを補うことが出来ている。先ほどの野焼きの話にも共通するが、研修を実施して知識や技術を習得した人材を市内各地に派遣することはとても良いことだと思う。今いる人たちでも、80代には80代の出来ることがあると思うし、女性には女性しか出来ないこともあると思う。今竹田にいる人材でも、各分野で、年代別に、出来ることを増やせる研修が行われると良い。

事務局

今後のスケジュールについて【資料(5)】

その他 参考資料

委員長

これから基本構想をまとめていくにあたり、前計画の評価と市民の満足度が乖離していることの分析と、時代のニーズに合わせて何を加えていかなければならないかを考慮いただき、庁内会議で検討していただきたい。本日の議論では、困り事へのワンストップの支援、新しい担い手を迎えるにあたっての支援、今いる人材で出来ることを増やすための支援等が話にあがった。これらは突然連携出来るわけではないので、学ぶ機会の創出やそれぞれが接点を持てる仕組みの構築等、ぜひ民間活力を利用して進めていただきたい。プレイヤーと課題を洗い出すとともに、連携の仕組みを検討していただき、その上で、看板施策が各部門で上がってくると良いと考えている。最後に、委員の皆さんは総合計画の策定プロセスを発信できる貴重なメンバーであるため、自身のコミュニティなどに積極的に発信して行って欲しい。併せて、無い袖は振れないということにも留意しつつ、次の会議に向けて、現場の課題やニーズを拾う情報収集をお願いしたい。

事務局

本日の資料と議事録は竹田市ホームページに公開する予定。

6 その他

委員

特になし。

7 閉会

事務局

志賀課長より、閉会のあいさつがなされた。

(以 上)